

意志の弱さと情動

信原 幸弘

東京大学大学院総合文化研究科

二種類の意志の弱さ

意志の弱さはありふれた現象である。たとえば、考慮しうることをすべて考慮したうえで、ケーキを食べないのが最善だと判断しながら、ケーキを目の前にすると、やっぱりケーキを食べようと思って、食べてしまう。つまり、すべてのことを考慮して、ある行為が最善だと判断しながら、その行為に反する意思決定を行って、それを実行してしまうのである。

意志の弱さには、もう一つ別の形態もあるように思われる。たとえば、すべてのことを考慮してケーキを食べないのが最善だと判断するだけでなく、その判断にもとづいてケーキを食べないと決意しながら、それでもケーキを食べてしまうことがある。つまり、自分の意思決定に反する行為を行ってしまうのである。

行為にいたる過程は、何をするかを決定する意思決定のプロセスと、決定した行為を実行に移す執行のプロセスに分けることができるが、意志の弱さは、この両方のプロセスで起こりうるのである。

二つの行為形成システム

意志の弱さがどのようにして生じるのかを説明するためには、認知心理学でしばしば提案されるように、行為を形成するシステムとして二つのものがあると考えられる必要があるように思われる。それらを仮に「旧システム」と「新システム」と名付けるとすれば、旧システムの方は、進化的に古く、大脳辺縁系を中心とするシステムであり、他方、新システムは進化的に新しく、前頭葉を中心とするシステムである。

旧システムは、おもに情動の働きによって無意識的な情報処理を行い、行為者にとって考慮可能な事柄の一部しか考慮せず、ヒューリスティックやショートカットを用いて意思決定を行う。それにたいして新システムは、おもに命題的態度としての信念と欲求を用いて意識的な推論を行い、考慮可能な事柄をできるだけ多く考慮して熟慮的な意思決定を行う。両システムの意思決定が食い違う場合は、その時点で力の強いほうのシステムの意思決定が最終的な意思決定となる。どちらのシステムの意思決定が最終版となるにせよ、その意思決定はそのシステムのなかで維持され、しかるべきときに実行に移される。

なお、旧システムは新システムから独立して、単独で作動しうるが、新システムのほうは旧システムに依存して作動する。たとえば、ヘビに恐怖を感じる時、この情動を反映して、ヘビを避けたいという欲求（命題的態度）が新システムのなかで形成され、新システムの作動を左右する。

意志の弱さの発生メカニズム

行為の形成システムが二つあるとすると、意志の弱さがどのようにして生じるのかが明瞭に説明できる。まず、新システムにおいて、すべてのことを考慮してケーキを食べないという意思決定を行っても、旧システムが一部のことを考慮してケーキを食べるという意思決定を行い、しかも旧システムのほうがこの時点では力が強いために、ケーキを食べるというのが最終的な意思決定となって、ケーキを食べてしまう場合が考えられる。これが、すべてのことを考慮して、ケーキを食べないことが最善だと判断しながら（新システムでの意思決定）、やはりケーキを食べようと思って（旧システムでの意思決定の勝利）、ケーキを食べてしまう場合に相当する。

また、ケーキを食べないという意思決定を行う新システムのほうがケーキを食べるという意思決定を行う旧システムよりも力が強いために、ケーキを食べないことが最終的な意思決定となるが、その意思決定を維持しているあいだに、何らかの理由で新システムと旧システムの力関係が逆転して、ケーキを食べることへと最終的な意思決定の移行が生じ、結局、ケーキを食べてしまう場合が考えられる。たとえば、ケーキを食べないという意思決定を維持するために、新システムはケーキを食べようという旧システムの意思決定を抑止していたが、それには忍耐が必要であり、新システムの忍耐力が枯渇して、旧システムのほうが優勢になることがある。

さらに、これとは逆の場合も考えられる。すなわち、ケーキを食べないという意思決定を行う新システムよりもケーキを食べるという意思決定を行う旧システムのほうが力が強いために、ケーキを食べることが最終的な意思決定となるが、その意思決定を維持しているあいだに、何らかの理由で力関係の逆転が生じて、ケーキを食べないことへと最終的な意思決定の移行が生じ、結局、ケーキを食べないでおく場合である。たとえば、いざケーキを食べようとする、太りたくないという思いがにわかに強くなって、それが新システムに大きな力を与えることが考えられる。これは、意思決定プロセスと執行プロセスの両方で意志の弱さが生じ、その結果、結局、最善だと判断した行為が実際に行われることになるケースである。

情動の働き

意志の弱さが生じるにあたって、情動の働きが一つの重要な鍵となる。情動は、旧システムにおいて意思決定の動向を左右する主な要因であるだけでなく、新システムにおいても欲求に反映されて意思決定の動向に影響を及ぼす。情動を反映した欲求は強い欲求（動機付けの力が大きい欲求）となるが、そうでない欲求は弱い。しかし、その強弱にかかわらず、欲求はその内容に従って新システムでの実践的推論において合理的な貢献を行う。したがって、そのようにして形成される意思決定は、実際に行為を引き起こす力が弱い場合がありうる。こうして新システムの意思決定が旧システムのそれに負ける場合が生じるのである。